

2020年2月9日・17日
入間市研修会

「CLMと個別の指導計画」

～担任のための支援のシナリオ～

NPO法人ライフ・ステージ・サポートみえ
中村 みゆき

障害児、気になる子どもを園や学校で育てる

- 子どもの気になる行動に対し
- 医療機関を受診する前に
- 保育所、幼稚園、学校等(子どもが生活している所)で適切な早期支援(保育・教育)を途切れなく行い、バトンタッチすることによって、問題行動の予防・軽減と自己肯定感の回復・向上が期待できる



- その行動の背景にある要因を探り当てる
- 要因に見合った支援方法を組み立て、実践する
- 使うツールは「CLM方式」



担任は保育(発達)の専門家

魚をもらいな

(支援方法を教えてもらうのではなく)

そろそろ 釣り方を覚えよ!

(自分で考え作成ができるようになる)

◆「CLMと個別の指導計画」の活用によって、

担任の目利き(観察力)、腕利き(支援力)が向上する

◆「CLMと個別の指導計画」の活用は発達支援の専門家を育成するツール

使うだけで力がつくよ!

子どもの発達にはいろいろあります(1)

1) 知的発達障害の子

言葉が出ない。着替えができない。お箸(スプーン)が使えない。

- ・クラス全体に教える方法だけでは身に付かない→担任や加配の先生が身近なところで教えている

2) 気になる子

順番を守らない。勝ち負けにこだわり1番でないと暴れる。できる課題とできない課題に差があり自信がないと活動に入らない。

- ・クラス全体に教える方法だけでは身につかない。「環境を整え」「クラス全体への支援」と、その子に対して「理解でき」「納得する」支援が求められる



クラスのみみんなやその子にあった方法で支援しなければ適切な行動が定着しない

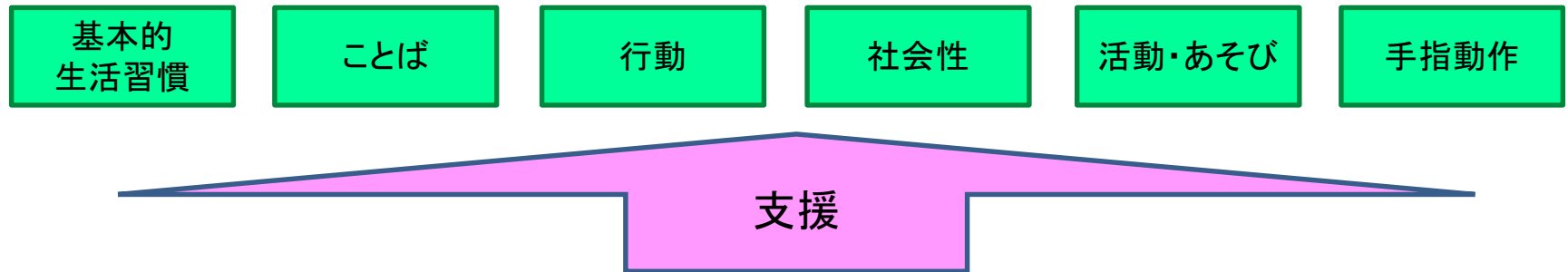


効果のある計画＝担任の支援のシナリオ

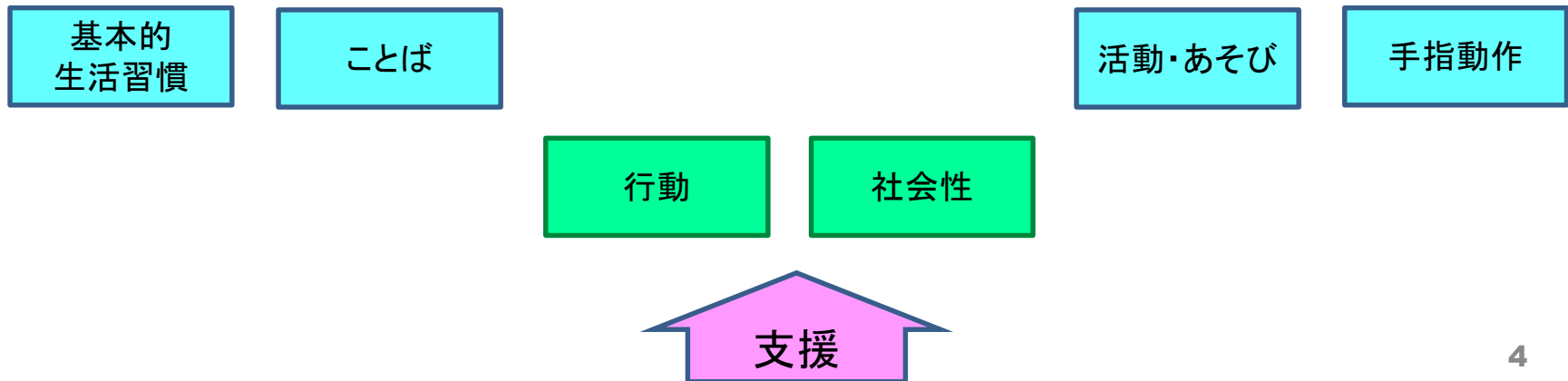
子どもの発達にはいろいろあります(2)

1) 知的発達障害の子

CLMはどちらのタイプにも活用できる



2) 気になる子



不適切な対応による問題行動の発生

- ・子どもは先生に好かれない、認められない
 - ・子どもは先生に言われたことを「しなければ」と思っている
- ↓



できないことがある
わからないことがある



“困ってしまいます”

①適切でない支援

「まだできないの！」
「早くしなさい！」



ことばで伝えられない。固まる・・・

激しい行動化

乱暴、暴言、飛び出し・・・

②適切でない支援

「さっさとしなさい！」



“どうせぼくはできない・・・”

自尊感情の低落

「どのようにすれば・・・困ったわ」

⇒担任の子どもへの理解と支援が求められる

個性的に育てる

- ◆保育、教育は全ての子どもを「定型発達児」に育てることではない
 - 子どもは年齢、興味関心、認知力の向上などにより発達、変化する
 - 特性、個性は一生続く。日常生活の中で、特性、個性とうまく付き合う方法を教える
 - 問題行動は、苦手なところ(凹)に発現することが多い
 - 苦手なところ(凹)に適切な手立てをして育ててゆけば、問題行動は予防できる
 - そのためには、その子の発達課題をみつけること⇒目利き力が求められる
- ◆個性的だけれど(全ての行動がみんなと同じようにはできないけれど)、その子なりの成長と自己肯定感が向上し、社会参加ができる支援をめざす

気になる行動には理由がある 要因を把握

- ・わかっているのにやらないのか？わからないからやれないのか？
- ・認知・行動の特性や特徴など
 - ・視覚、聴覚、触覚等による理解
 - ・視覚、聴覚、視覚・運動等による記憶
 - ・短期、長期記憶(複数の記憶)、
 - ・ボディイメージ、位置(空間)関係
 - ・集中が途切れる、多動、衝動性、不器用、こだわり、コミュニケーションのとり方がわからない、過敏性がある…
- ・自己評価 → 一番になれないなら参加しない、絵が上手く描けない、カッコわるい自己採点が厳しい等で参加しなかったりする
- ・愛着:認められたい → 過剰な甘えと攻撃、よくない行動で気を引く？
- ・変化に弱くパターンに強い → 在籍機関・キーパーソン・支援方法等の変更、家族関係の変化
- ・気になる行動のデーター収集(2週間)→分析→支援計画→実行→評価

暴力行動観察チェック表

月 日 () 天候 () 名前 (太郎) (5 歳児)

スケジュール	時間	場面	対象	起こした行動	要因と 思われること	備考
登園						
自由 あそび	9:20	滑り台を しているとき	B男	順番を守らず、B男に「ずるい」と言われ、B男を叩いた	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を守る事理解ができていない ・すぐに滑りたい(待てない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体に順番を守るルールを知らせる ・友だちを叩かない、押さない約束をする
一斉活動						
給食	12:10	トイレで順番を待っているとき	C夫	後から来て一番前に並んだ。その時C夫を押しした	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を守る事理解ができない ・すぐにしたい(待てない) 	同上
お昼寝 おやつ 自由あそび 降園準備 帰園	15:40	ブロックであそんでいるとき	E郎	E郎が使っているブロックを取った	物を借りる時の言い方がわからない?	物を借りる時の約束「貸して」「いいよ」はクラス全体や太郎が理解しているか確認する
わかったこと	自由時間に多い	<ul style="list-style-type: none"> ・並んで待つ時 ・あそんでいる時 	誰でも	叩く、押す、取る	<ul style="list-style-type: none"> ・順番が守れない ・待てない ・コミュニケーションの取り方を知らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや約束が理解できているか ・一斉活動の時には見られない。自分で判断できない

障害児、個性的な子と他の子どもとの関わり

～子どもの障害、個性に見合った配慮～

- ◆苦手な部分に、何の手立てもなく要求水準の高い行動を求められると、問題行動の発現につながる
- ◆行動の問題を生じている状態が発達障害特性があっても問題行動が出ていなければ個性の範疇
- ◆その子が特別な努力をしないで、他児と同じ活動を少しでもできるようにいろいろ工夫をすることが大事
- ◆子どもが楽しいと思える活動を提供できれば診断にこだわる必要はない
→適切にアセスメントし、どのような手助けをすればよいか、を考えること

加配の先生と
担任の先生の
協力関係！

～観察力・要因分析力・支援力～

【観察力】: 日常生活の中で、子どもの行動を客観的に把握する力

◆いつ・どこで・何があって・どうなった

保育室で(どこで)ブロックあそびをしている時(いつ)、片づけの時間になっても遊び続けていて(何があって)片づけをしない(どうなった)

【要因分析力】: 行動の背景にある理由を探りあてる力

- ①何を片づけるのかがわからない(片づける物がわかる)
- ②片づける時間の始めと終わりがわからない(始まるの時間と終わりの時間がわかる)
- ③もっと遊びたい(次に遊べる時がわかる)
- ④作った物を壊したくない(壊さなくてもよいとわかる)

【目標】: 到達点の姿

◆グループで決められた物を片づけることができる

【支援力】: 要因に対し成功する支援を組み立て、実践する力

①何を片づけるのかがわからない（片づける物がわかる）

- ・クラス全体の支援⇒グループ分けをし、片づける物を決める
- ・個別の支援⇒「絵本を片づけるよ」

②片づける時間の始めと終わりがわからない（始まるの時間と終わりの時間がわかる）

- ・クラス全体の支援⇒片づけの時間になったら音楽を流し、終わるまでに片づけることを伝える
- ・個別の支援⇒「音楽がなっている間に片づけようね」

③もっと遊びたい（次に遊べる時がわかる）

- ・クラス全体の支援⇒給食の後に遊べることを伝えておく

④作った物を壊したくない（壊さなくてもよいとわかる）

- ・クラス全体の支援⇒作った物を壊したくない時は作品棚に飾っておいてもよいことを伝える

なぜ 早期支援が必要か

気になる子の行動を見極め、個の発達や特性に見合った支援を行うことによって

- 問題行動の発現を予防, 改善できる
- その子なりの成長・発達が期待できる



そのためには保育所・幼稚園で
担任の観察力と支援力が求められる

二次障害を
発現させない
ため

「CLMと個別の指導計画」を活用

「CLMと個別の指導計画」における 環境の整えと支援の組み立て

1 クラス環境の整え

ユニバーサルデザインの視点を活かした場・時間等の構造化

2 クラス全体の支援

クラスルールの明確化

3 個別の支援

成功体験の共有・信頼関係の構築

どの子にもわかりやすく、規律のある保育（1）

＜クラス環境の整え＞

【構造化】

●朝の支度がスムーズにできない 19

- ・朝の支度が1ヶ所でできるコーナー19
- ・手順表を示す18

●見通しが持てず次の活動がわからない

- ・スケジュール表を活用する75

●物の置き場所が覚えられない 69

- ・個人棚、お道具箱の片付けに写真や台紙68

●制作の工程がよくわからず活動に参加しない139

- ・制作手順を工程表(折り紙)で知らせる91

●集中が続かない 31

- ・一人で落ち着ける場所58

* 数字は参考文献のページ

下線あり ⇒クラスみんなと育ち合う「保育デザイン」

下線なし ⇒気になる子も過ごしやすい園生活のヒント

どの子にもわかりやすく、規律のある保育（2）

＜クラス全体の支援＞

【クラスの約束や活動ルールを明確にする】

●集中ができない

- ・集中「目のサイン」、「バラ組さん」「はい先生」
- ・絵本等に集中できない時は見せ方や環境の点検87

●給食の時立ち歩きがある 35

- ・給食はみんなで「ごちそうさま」166

●人の物を勝手に使う 41

- ・「かして」「いいよ」「どうぞ」「ありがとう」

●喋ってはいけない場面でもよく喋る 57 63

- ・お話は静かに聞きます。「先生のお話が終わったら、手をあげます」「気づきのサイン:しずお君」113 114

●勝ちや一番にこだわる 113 119

- ・バリエーションを持たせる103

●集団遊びのルールを知る 145

- ・ルールの確認。約束。ジャッジは先生105

個別の支援(3)

成功体験の共有・信頼関係の構築

①問題行動を起こさせない、予防の観点での支援

- ・できない→できるように
- ・人を叩く→叩かせない
- ・飛び出す→飛び出させない

②成功体験、自己肯定感の向上

- できない→気を引く行動→叱る・一人でさせようとする→不適切な行動
- できない→90%支援→「できた」成功体験→適切な行動→支援の定着→支援の引き算(ステップアップ)

③ほめる支援

- 褒める支援は子どもが先生に近づく(信頼関係が深まる)
- 注意・叱る支援は子どもが逃げる(人手が要る。先生が嫌いになる)

保育指針の中に「CLMと個別の指導計画」の概念が！

- 特別な配慮を必要とする子どもの個別の指導計画を作成するには、日常の様子を踏まえて、その子どもにとって課題となっていることが生じやすい場面や状況、その理由などを適切に分析する。

エピソード

要因分析

目標

- その上で、場面に適した行動などの具体的な目標を、その子どもの特性や能力に応じて、1週間から2週間程度を目安に少しずつ達成していけるよう細やかに設定し、そのための援助の内容を計画に盛り込む。

期間

- 障害や発達上の課題のある子どもが他の子どもと共に成功する体験を重ね、子ども同士が落ち着いた雰囲気の中で育ち合えるようにするための工夫が必要である。

環境の整え・クラスみんなの支援・個別の支援

「CLMと個別の指導計画」(1)

【CLM】

「CLM(チェック・リスト・in三重)」は保育所・幼稚園等に通う気になる子の行動を観察し、「個別の指導計画」を作成するために、開発されたアセスメントツール

・CLMの活用においては「個別の指導計画」作成が必須となっている

「CLMと個別の指導計画」(2)

【CLM】

- 対象：保育所・幼稚園等に通う障害児、気になる子
- CLMの種類「3歳児クラス用」「4歳児クラス・5歳児クラス用」
- 判断のめやす：4段階
 - 1：全くない（全くみられない）
 - 2：あまりない（週1～2回）
 - 3：少しある（週3～4回）
 - 4：よくある（毎日見られる）
- 診断名をつけたり障がいを持定したりするための使用は禁止

「CLMと個別の指導計画」(3)

【個別の指導計画】

- 子どもの自尊心の育成や回復が可能になるように、
担任が適切な保育を実践するために作成する支援のシナリオ
- 治すのではなく、育てるプログラム
- 取り組み期間は2週間
- 作成手順の明確化
 - ①CLMチェック、エピソードの作成
 - ②CLMの選定
 - ③エピソードの選定
 - ④要因分析
 - ⑤目標の設定(2週間以内で成功できる目標)
 - ⑥クラス環境の整え
 - ⑦クラス全体の支援
 - ⑧個別の支援
 - ⑨準備物、期間、評価日の決定
 - ⑩ロールプレイ

手順通りに作成すればだれでも計画は立てられる

「CLMと個別の指導計画」(4)

【個別の指導計画】

《気になる子の支援とクラス全体の支援》

- 気になる子の支援は、
- クラスの他の子どもへの支援とバランスを保ちながら
- 日常の園生活で、
- 育ち合いを軸として、適切な支援を行うことを目的にしています。



クラス作りと他の気になる子への支援も同時に解決

《適切な支援》

- すべての子どもにわかりやすい保育・教育
- 規律のある保育・教育

友だちの物をとってしまおうS君が 順番を待ち、我慢ができるようになった！

1: 気になる姿

→ 友だちの遊んでいる物をとってしまおう

2: なぜ？(要因)

→ ① 自他の物の区別がつかない

→ ② かしてもらう方法がわからない

→ ③ かして欲しい衝動が抑えられない

3: どのようになって欲しい(目標)

→ 友だちが遊んでいる物が欲しい時は「かして」と言えるようになる

4: どうしたら(担任の支援のシナリオ)

→ ① 物に園のマークや子どもの名前を書く

→ ② 「かして」「いいよ」「まって」のロールプレイをクラス全員でする

→ ③ 少し待てば自分の順番がくることがわかるようにする 「3分の砂時計の砂が落ちたら、次はS君の番です。一緒に待とうね」と言って待つ。

● ルールを守りトラブルが減る

● 子どもは希望をもって 我慢の力をつける

自発語が出ていない年長児A君 クラスのみんたとトイレに行けるようになった！

1: 気になる姿

→クラスのみんたと一緒に、加配の先生がトイレに誘うが、行きたがらない。トイレで排尿ができない

【興味のあること、毎日していること】

→トーマスが好き。加配の先生と毎日、好きな遊びの時間に、型はめパズルや紐通しなど個別あそびをしている。できたら拍手で褒めてもらっていて嬉しそう

2: 目標

→トーマスの絵が貼ってあるトイレに、決められた時間ごとにタッチできる(S1目標)

3: 要因と支援の相関

①トイレが好きではない→好きになればよい→トーマスのシールを便器に貼る

②トイレに行く経験が少ない→経験できればよい(回数を増やす)→時間を決めてトイレ誘導

【結果】

2週間、毎日行い、S1目標が達成した。トイレに行く習慣が身についた。

経過中、加配の先生が個別あそびで褒める時にする拍手をトイレでしたところ。排尿できた。「褒められることと排尿することがつながったようで成功しました」と報告があった。そして、クラス担任の声掛けでみんなと一緒にトイレに行けるようになった。(加配の引き算)

加配の先生と担任の先生との協働

「CLMと個別の指導計画」の作成



2020年「CLMと個別の指導計画」作成の流れ

【事前準備】

- 担任は ①対象児にCLMチェックを行う
②プロフィールとエピソードを記入

【当日】

CLMの集団チェックと個別の指導計画作成会議

<参加者> 保健・福祉・教育関係者が集合

- * 発達総合支援室（保健師・保育士・教員）
- * 保健センター：保健師
- * 児童福祉課：行政（保育士）
- * 教育委員会：行政（指導主事）
- * 就学先管理職、CO.

<CLM集団チェックの実施>

- * 観察時間：9：30～10：30
- * 観察場面：チェックされやすい場面

<個別の指導計画検討会>

- * 時間：10：30～12：00

【評価会】

<参加者>

検討会参加者

<評価内容>

- ・ 成功体験
 クラスの様子

- ・ 次の目標

事例:TOM



クラスの様子

年長児：23名（男児13名 女児10名）
担任：1名（加配等なし）

クラスの子どもの
良いところ、
気になるところ
を意識して観察

【よいところ】

- 明るく、元気な子どもが多い
- 年少さんには優しい

【気になるところ】

- クラス全体が騒がしい
- 落ち着いて話を聞くことが苦手な子どもが多い

他の子とのかかわり
により問題行動が
起こる場合は
詳しく書く

TOMの姿



【よいところ】

- ブロックや虫とりが大好き
- 先生と遊ぶと落ちついて、楽しめる
- 優しいところもあり、お手伝いを進んでしてくれる

【気になるところ】

- ブロックや虫取りなど同じ遊びばかりする
- 思い通りにならないとイライラして物を投げ、先生に注意されると外に飛び出す
- 片づけの時間になっても片づけをしない
- 困ったことがあっても、助けを求められない

プロフィール

名前 <small>ふりがな</small> TOM (男・女) ○○年 ○月生 (5歳 5か月)	◎園名 SAKURA保育園																		
◎家族構成 父、母、姉、祖母	◎園の住所・連絡先 住所：A市B町1丁目23 TEL：000-111-222 FAX：000-111-223																		
◎成 ・首 ・ひ ・人 ・はいはい (9か月) (12か月) ・つたい歩き (11か月) まんま、だい (ちょうだい)	日：○○年 ○月 ○日 日： 年 月 日 : 単独 (年少・年中・年長) (23) 名 (男:13名 女:10名) 異年齢 () 名 (男: 名 女: 名) ■ 年少 () 名 (男: 名 女: 名) ■ 年中 () 名 (男: 名 女: 名) ■ 年長 () 名 (男: 名 女: 名) ◎クラスの大人の数 (1) 名 担任名: MORI 本児のみの加配保育士 (有・ <input type="checkbox"/>) 本児を含む複数の児の加配保育士 (有・ <input type="checkbox"/>) 「有」の場合 1対 名																		
◎健康診査 ・1歳6か月 よく動く ・3歳 折り紙をしたがらなかった	◎今回4点を付けた項目を記入 <table border="1" data-bbox="937 978 1825 1249"> <tr> <td></td> <td>(5月)</td> <td>(10月)</td> <td>(月)</td> </tr> <tr> <td>4歳児</td> <td>1, 2, 3, 7, 8, 10, 11, 12, 13</td> <td>2, 3, 7, 8, 10, 11, 12, 13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5歳児</td> <td>(4月)</td> <td>(月)</td> <td>(月)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2, 3, 7, 8, 10, 12</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				(5月)	(10月)	(月)	4歳児	1, 2, 3, 7, 8, 10, 11, 12, 13	2, 3, 7, 8, 10, 11, 12, 13		5歳児	(4月)	(月)	(月)		2, 3, 7, 8, 10, 12		
	(5月)	(10月)	(月)																
4歳児	1, 2, 3, 7, 8, 10, 11, 12, 13	2, 3, 7, 8, 10, 11, 12, 13																	
5歳児	(4月)	(月)	(月)																
	2, 3, 7, 8, 10, 12																		
◎受診している医療機関、療育機関等 なし																			

生年月日・家族・発達歴・健診・受診等

今回4点を付けた項目を記入

エピソード

名前：TOM 市町名（A市）園名（SAKURA保育園）クラス名（とり）

*担任の願い
みんなと同じように行動してほしい

*好きなあそび・興味のあること・よいところ
虫とり、ブロックが好き。担任と二人で遊んでいるときは嬉しそう。お手伝いを進んでしてくれる。

(2)片づけができない

・自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない
・園庭あそびの片付けの時、虫たかごに入れるが、虫取り網は園庭に落とす。

(8)どん

よく喋る

・朝の会や

・話を聞かなければい

担任が「4:よくある」とチェックした項目を挙げる

好きなあそび、興味のあること、よいところを沢山見つける

子どもの様子などエピソードを2つ書く「いつ、どこで、何があって、どうなった」

(3)先生の話を聞いて行動で
制作の時「とんとりを持ってきましょう」と言っている。

・保育室に行きます」
と聞いて動かない。

・近くの席の友だちに話しかけたり、ちよっかいをかけたります。
・自由あそびの時、何をしてもなく保育室や廊下を走り回る。

だちが何度も「かして」と声をかけるとイライラして投げる。
・自由あそびの時、虫を他児が触ろうとすると割って入る。

(12)同じあそびしか行わず、あそびが発展しない

・ブロック、積み木、虫とり、すべり台ばかりをしている。
・ブロックあそびの時、いつも同じ形の車を作っている。

①チェックリスト項目の選定

得点集計

担任が一番気
になる項目



得点集計

参加者が4点を付けた項目の
得点を合計する

集計表


	項目	担任	福祉	校長	保健師	合計	担任が一番気になる項目
1	登園、降園の支度や給食の準備など一連の動作が途切れやすい	3					
2	片づけができない						
3	先生の指示を聞いて行動できない	4	4			8	
4	初めて取り組むことに参加できない	3					
5	自分の思いをことばで表現できない	3					
6	文字、数字、形などに興味を示さない	2					
7	落ち着きがなく、よく動く	4	4	4	4	16	
8	どんな場面でもよく喋る	4	4		4	12	
9	日課、習慣、場所、時間、道順など	3					
10	友だちとトラブルをよく起こす	4			4	8	
11	集団活動に最後まで参加できない	3			4		
12	同じあそびしか行わず、あそびが発	4	4		4	12	
13	あそびが次々と移っていく	3					
14	ごっこあそびができない	3					
15	制作活動に最後まで参加できない	3					
16	ハサミ、鉛筆、箸などの操作がうま	3					

チェック者は保健・福祉・教育関係者

チェック者が4点をつけた得点を集計する

担任が一番気になる項目

担任が一番気になる項目



担任の意思
を尊重する

(2) 片づけができない

エピソードの選定

【チェック項目】

(2) 片づけができない

【エピソード】

- ・自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない
- ・園庭あそびの片付けの時、虫だけは大事に虫かごに入れるが、虫取り網は園庭に放ってある

エピソードは
どちらかを選ぶ

プラン

名前： TOM (5歳5ヶ月)	ASUNARO 町 SAKURA 園
-----------------	--------------------

<p>チェック項目 (2) 片づけができない エピソード 自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。</p>
--

要因

目標

期間	具体的な指導方法		結果・評価		
	<クラス環境の整えとクラス全体の支援>	<個別の支援>	月日	○×	特記事項
			評価日		

要因

【チェック項目】

(2) 片づけができない

【エピソード】

自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。

【要因】

- ①何を片づけるのかがわからない
- ②片づけの始めと終わりがわからない
- ③もっと遊んでいたい
- ④作った物を壊したくない

名前： TOM (5歳5ヶ月)	ASUNARO 町 SAKURA 園
チェック項目 (2) 片づけができない エピソード 自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。	要因 ①何を片づけるのかがわからない ②片づけの始めと終わりがわからない ③もっと遊んでいたい ④作った物を壊したくない

目標		結果・評価			
期間	具体的な指導方法				
	<クラス環境の整えとクラス全体の支援>	<個別の支援>	月日	○×	特記事項
			評価日		38

目標

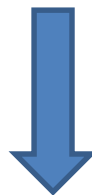
2週間で達成できる
目標

【チェック項目】 (2) 片づけができない

【エピソード】 自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。

【ゴールの姿】 ← 担任の願い

みんなと一緒に過ごしてほしい (片づけも)



友だちと協力して片づ
けることも大事

グループで決められた物を片づけることができる

名前： TOM (5歳5ヶ月)		ASUNARO 町 SAKURA 園		
チェック項目 (2) 片づけができない エピソード 自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。		要因 ①何を片づけるのかがわからない ②片づけの始めと終わりがわからない ③もっと遊んでいたい ④作った物を壊したくない		
目標 片づけの時、グループで決められた物を片づけることができる		結果・評価		
期間	具体的な指導方法		月日	○×
	<クラス環境の整えとクラス全体の支援>	<個別の支援>		特記事項
			評価日	
			40	

<p style="text-align: center;">相関表</p>	<p style="text-align: center;">クラス環境 の整え</p>	<p style="text-align: center;">クラス全体 の支援</p>	<p style="text-align: center;">個別の支援</p>
<p>①何を片づけるのか分からない →片づける物がわかればよい</p>	<p>・片づける物を書いた「グループ片づけ当番表」を、掲示する ・「片づけの仕方の表」を掲示する</p>	<p>グループ分けをし、片づける物を伝える</p>	<p>「絵本を片づけるよ」と伝える</p>
<p>②片づける時間の始まりと終わりが分からない →始まりと終わりがわかればよい</p>		<p>片づけの時間になったら音楽を流し、終わるまでに片づけることを伝える</p>	<p>「音楽がなっている間に片づけようね」と伝える</p>
<p>③もっと遊びたい →次に遊べる時がわかればよい</p>		<p>給食の後にあそべることを事前に伝えておく</p>	
<p>④作った物を壊したくない →壊さなくてもよいことがわかればよい</p>	<p>作品棚を準備し、作品を飾れるようにしておく</p>	<p>作った物を壊したくない時は作品棚に飾っておいてもよいことを伝える</p>	

名前	TOM (5歳 5か月)	市町名	育園)
チェック項目	(2) 片づけができない	要因	① ② ③ もっと ④ 作った
エピソード	自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。		
目標	片づけの時、グループで決められた物を片づけることができる。		
期間	具体的な指導方法		結果・評価
			月日 ○× 特記事項
4/17 ~ 4/28	<p><クラス環境の整えとクラス全体の支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かたづけのしかた」と「グループ当番表」を提示しておく。 ・作品棚を作った <p><朝の会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・片づけの仕方と片づけ当番グループを伝える。 ・片づけが苦手な時は「作品棚」に置いておくことが出来るよ」と伝える。 <p>・片づけの時間になったら「今からお片づけをしましょう」と声をかけ、音楽を鳴らす。</p> <p>・グループごとにほめる。</p>	<p><個別の支援></p> <p>「絵本を片づけます」</p> <p>・「TOMくんはうさぎグループだから、絵本を片づけます」と個別に具体的に伝える。</p> <p>・個別にもほめる。</p>	<p>5月1日(月) 14:00~</p>

何を片づけるか

始めと終わり

もっと遊びたい

作った物を壊したくない

片づけの仕方とグループ当番表を示す

「絵本を片づけます」

「作品棚に置こうね」

「給食の後にあそべるよ」

音楽を流す

「音楽がなっている間に片づけようね」

評価

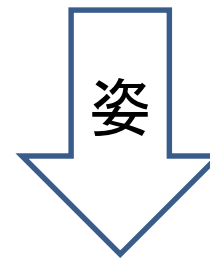
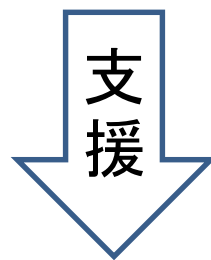
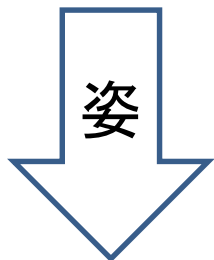
名前 (5歳 5か月)	市町名 (A市) 園名 (SAKURA保育園)
チェック項目 (2) 片づけができない エピソード 自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。	要因 ①何を片づけるのかがわからない ②片づけの始めと終わりがわからない ③もっと遊んでいたい ④作った物を壊したくない

目標 片づけの時、グループで決められた物を片づけることができる。

期間	具体的な指導方法		結果・評価		
			月日	○×	特記事項
4/17 ～ 4/28	<クラス環境の整えとクラス全体の支援> ・「かたづけのしかた」と「グループ当番表」を提示しておく。 ・作品棚を作っておく。	<個別の支援> ・「TOMくんはうさぎ」と個別に具体	4/17	○	個別で声をかけたら片づけることができた。
			4/18	○	
			4/19	○	
			4/20	○	名前を呼ぶだけで気づき、片づけることができた。
			4/21	○	
			4/24	○	
			4/25	○	
			4/26	○	担任が名前を呼ばなくても、友だちの動きを見て自分から片づけ始めた。
			4/27	○	
			4/28	○	

10/10 成功

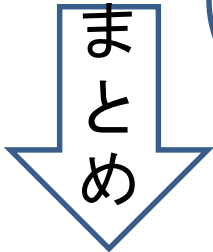
継続か
新規計画か



名前： TOM 園名 [SAKURA保育園] ⇒ 学校名 [YURI小学校]

課題（エピソード）	目標	要因	支援	結果
自由にブロックあそびをしている時、片づけの時間になっても片づけをしない。	片づけの時、グループで決められた物を片づけることができる。	①何を片づけるのかわからない ②片づけの始めと終わりがわからない ③もっと遊んでいたい ④作った物を壊したくない	①グループ分けと片づける物を、クラス全体に表を用いて提示し、本児には個別でも具体的に伝えた。 ②担任の声掛けと音楽で、始まりと終わりを知らせた。 ③次はいつ遊べるかを知らせた。 ④作品棚を設置し、事前にクラス全体へ周知し、本児にも個別で知らせた。	①片づける物がわかって、グループの他の子と一緒にすることが理解できた。 ②音楽をかけることでクラス全体が気づき、一斉に片づけ始める（切り替える）ことができた。 ③「次は給食の後に遊べる」等、具体的に知らせたことで見通しをもて、すぐに行動できた。 ④壊さなくてもよいことがわかり、音楽が鳴った時、すぐに作品棚に玩具を置いていた。

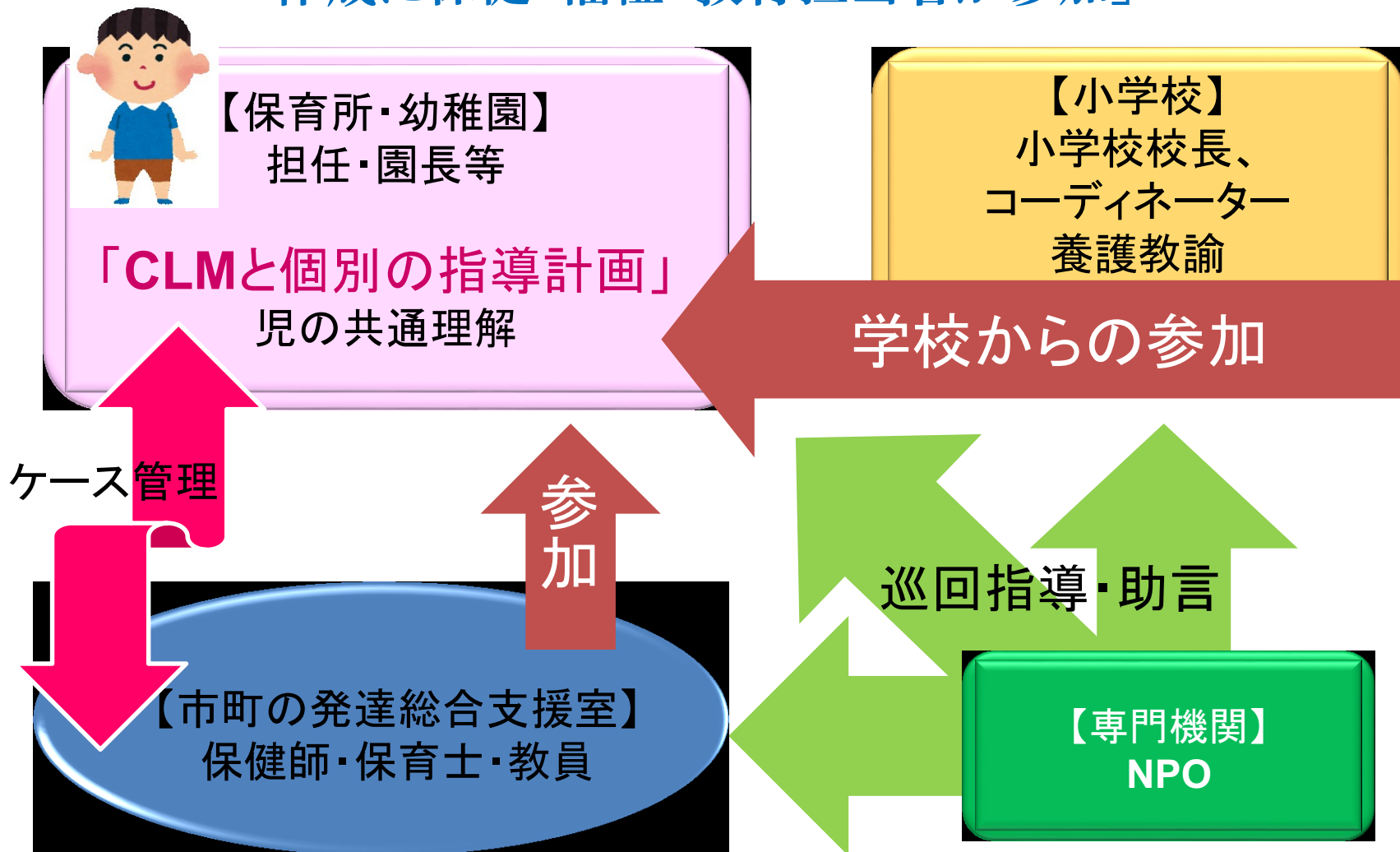
就学後の
支援の具
体的な引
き継ぎ



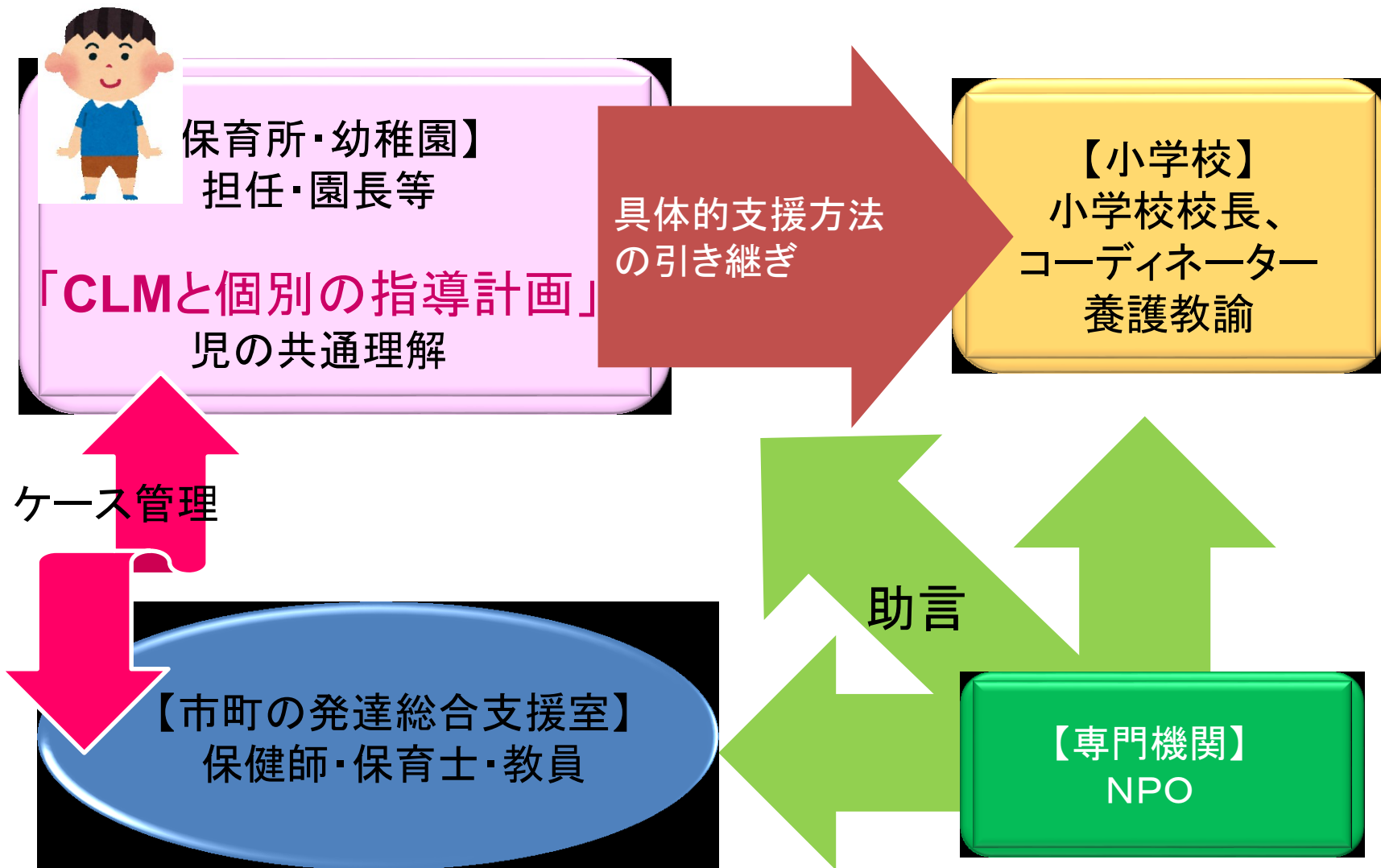
本児にとっての有効な支援方法、配慮など

- できそうな小さな目標から少しずつ取り組むことが有効である。
- 事前に順序や方法を明確に示して見通しをもたせることが有効である。
- 自分だけではなく、クラスの皆と一緒に行動することを伝え、個別への具体的な声掛けをすると有効である。

「就学前年に保育所・幼稚園等での『CLMと個別の指導計画』作成に保健・福祉・教育担当者が参加」



「個別の指導計画」を小学校に引き継ぐ



「1年生訪問」(翌年春)

授業参観&校内研修会(校内委員会)

【保育所・幼稚園】
担任・園長等

【小学校】
小学校校長、
コーディネーター
養護教諭



支援の引き継ぎ確認

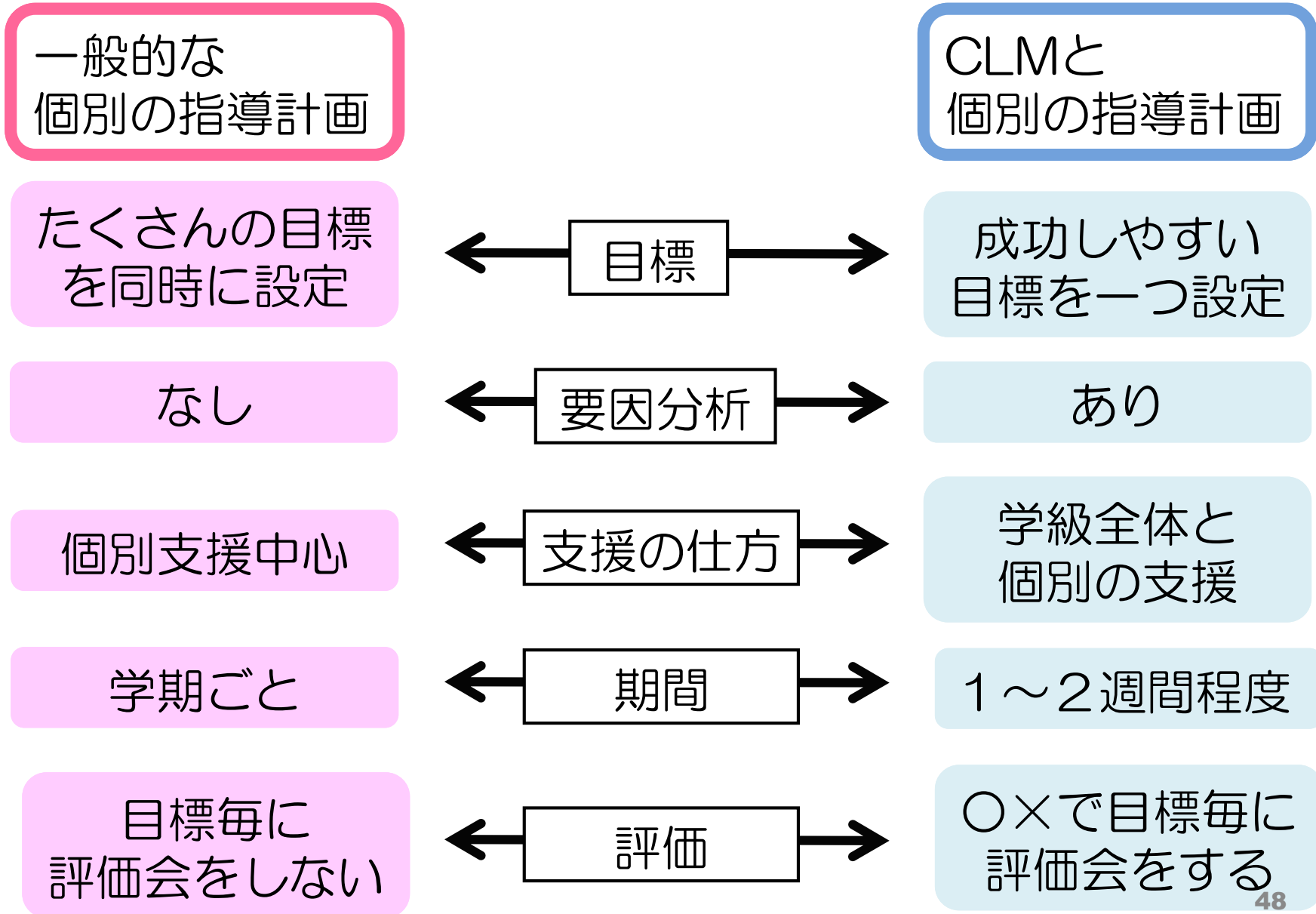
ケース管理

助言

【市町の発達総合支援室】
保健師・保育士・教員

【専門機関】
NPO

一般的な指導計画と「CLMと個別の指導計画」のちがい



「CLMと個別の指導計画」の特徴

- チェックより、“計画”が主である
- 作成の手順が明確である
- 保護者や担任が保育として受け入れやすい
- 要因分析に基づき、クラスのみennaと育ちあう、根拠のある支援方法である
- 問題行動を発現させない「予防的な支援(保育)」である
- 気になる子の個性を大事にし、クラスの友だちも一緒にできる支援方法である

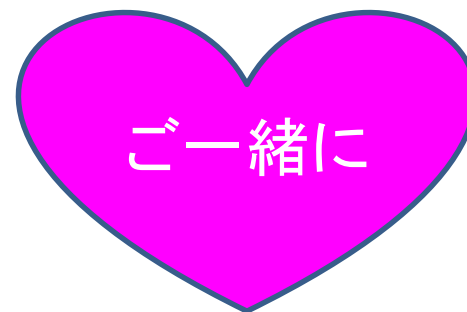


「CLMと個別の指導計画」の効果

- 2週間の取り組みで、**気になる行動が軽減する**
- 気になる子だけではなく、**クラス全体がまとまる**
- 保育者の保育力の向上：**人材育成**
- 保健・福祉・教育等関係機関の**横の連携**
- 保育所・幼稚園から小学校への**縦の連携**
- 保健・福祉・教育による**ワンストップ窓口の体制づくりが可能**

「CLMと個別の指導計画」を取り入れていただくために

- ①しらん⇒「知らない」
- ②わからん⇒「分からない」
- ③むつかしい⇒「難しい」



まずは

- ①知った⇒「CLMと個別の指導計画」の初級研修に参加しましょう
- ②分かった⇒NPOがサポートします
- ③簡単⇒①②を通して多様な計画を知ることができます
慣れれば簡単です！大丈夫、安心して取り組みましょう